

第2回香取地区地域協議会 記録

1 日 時 令和6年2月2日（金） 午後2時から午後4時まで

2 場 所 北総教育事務所香取分室 大会議室

3 出席者 11名／14名

4 概 要

(1) 第1回香取地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

(2) 香取地区における県立高校の在り方について

資料1「再編内容及びその評価について（小見川高校）」、資料2「再編内容及びその評価について（多古高校）」、資料3「再編内容及びその評価について（佐原白楊高校・佐原高校）」に基づき、香取地区の県立高校4校の過去に実施した再編の成果と課題について事務局より説明

【座 長】

ただいまの事務局からの説明について、何か質問等はあるか。また、多古高校のコミュニティ・スクールについては、前回も御説明いただいたところだが、補足等はあるか。

【委 員】

前回もコミュニティ・スクールについては説明したところである。また、このあと多古町の方からコミュニティ・スクールとして、町との取組について説明もあるため、その中で補足するようなことがあれば、発言したいと思う。

他の学校についても、よくこの地区の校長と話し合う機会があり、色々な話題も出てきている。私の知っていることであれば、答えようと思う。

【座 長】

承知した。小見川高校の医療コースが令和6年度から始まるとのことだが、福祉コースを設置した成果を踏まえた上で、医療コースを設置するということなのか。

《事務局》

その通りである。医療コースについては、福祉コースと同様に近隣の関係機関と連携することで、体験的な学習ができるといったことが期待できる。また、看護師だけではなく、作業療法士や臨床検査技師など様々な職業に目を向けることで、幅広い進路選択ができる。こういったことを期待して小見川高校に医療コースを設置した次第である。

【座 長】

承知した。福祉コースで培った連携のノウハウを参考にして、医療コースでも地域との連携を強化していけるという意図もあるのか。

《事務局》

その通りである。医療や福祉については授業等だけで理解することが難しいため、関係機関との連携が重要になってくる。また、連携のノウハウがあることも大切であると考える。

前回配付した資料に記載されているが、福祉コースに関しては、地域のバランスを考慮して設置したところである。参考までに、松戸向陽高校に関しては、県内唯一の福祉教養科という学科を有している。

【座 長】

コースの定員は何名なのか。

《事務局》

医療コースに関しては、令和6年度設置ではあるが、2年生からコース選択をすることになる。現在、準備委員会を立ち上げて、定員の人数などを検討しているところである。

また、他のコースについては、定員を設けず希望者全員を受け入れるコースもあれば、施設や設備等の関係で定員を設けて運用しているコースもある。

【座長】

他にあるか。小見川高校の福祉コースや医療コースが設置されることに対して、教育機関ではない委員の方はどう考えるか。

【委員】

福祉においては、介護事業所等の人材は現場で不足している実態がある。福祉関係に興味がある生徒は、こういったコースがあれば選択すると思う。人材不足の解消に繋がる一つになるのではないか。

【座長】

こういった学びが地域の人材の供給源になると良い。多古高校の園芸科については、地域との繋がり等はどうか。

【委員】

昔は、農業科と園芸科の2つの学科があった。そこから生産流通科の1つになり、農場も縮小したという経緯がある。今の園芸科では、多古町の学校給食に収穫した食材を提供することや、栽培した草花をハンギングバスケットにして、街中に飾りつけをしている。また、小・中学生に対して、草花の寄せ植え体験を実施するなど、非常に地域に根差した学科であると感じている。

【座長】

農業科としての長い歴史がある中で、園芸科を卒業した生徒の就職先についてはどうか。

【委員】

元々は、町立の多古農学校であり、以前は畜産も行ってた。園芸科を卒業して就農する生徒は毎年数人程度であり、残念なところである。また、県内の農業関係高校の校長と話す機会があるが、どの学校でも生徒募集に苦慮しているのが現状である。就農に関しても、農協と協力をして何とか就農を増やしていこうとしている。この地域だけの問題ではなく、県全体の問題である。

【座長】

佐原白楊高校は20年程前に共学化をしているが、現在において、共学化したことによる地域への影響はどのようなものがあるか。分かる範囲で教えてもらいたい。

【委員】

共学化については、非常に良かったと思う。共学化に加え、校名も変更になったことで、インパクトのある学校となった。また、定着して良かったと感じている。

【座長】

他にいかがか。

【委員】

香取地区は観光の資源が豊富な地域である。佐原は昔と比べ、大きく変わってきている。県の方針でもキャリア教育を踏まえた学びを市原や銚子等の高校に設置されているが、是非、香取地区の高校に観光に関するコースの設置をと思っている。國學院大学が佐原の観光まちづくりを参考にしており、協力した経緯もある。また、他の大学も視察に来ている。そういった意味でも観光のコースがあると良いと思っている。

【座長】

ただいま、観光に関するコースについて発言があったが、事務局どうか。

《事務局》

令和6年度から一宮商業高校に観光に関するコースを設置するところである。また、観光・環境・防災に関する教育としては、市原八幡高校に防災の学び、市原高校に緑地管理コース、館山総合高校に栽

培環境コースと観光の学び、銚子高校に防災の学び、銚子商業高校に海洋環境コースの5校にその地域の資源等を活用したコースや学びを設置している。

一宮商業高校の観光に関するコースについては、近隣に所在する観光施設や宿泊施設、商工会議所及び大学等との連携や、観光アプリの開発を通して、観光教育の充実を図っていこうと考えている所である。

【座長】

確かに、こういった学びの中で人材が育つのであれば、この地域にも観光のコースがあれば活かしていけるのかもしれない。

《事務局》

今後、成田空港の滑走路の拡張から、外国人の集客が見込まれることから、成田や佐原の地域に国際空港や観光の学びがあると良いと思う。

【座長】

他にいかがか。なければ、前回事務局から提案があった通り、市町の今後のまちづくりの方向性や、小・中学校の将来計画について説明いただきたいと思う。では、県立高校が所在する香取市、多古町から御説明いただきたい。初めに多古町からお願いしたい。

【委員】

多古町の今後のまちづくりの方向性と多古高校との取組について説明したいと思う。まちづくりの方向性については、「成田国際空港の更なる機能強化」及び「首都圏中央連絡自動車道（大栄 JCT～松尾横芝 IC 間）の開通」による波及効果を最大限に活かしたまちづくりを進めるため、交通アクセスの強化をはじめ、新たな地域経済活性化拠点の整備による交流人口の増加を目指している。

また、子育て支援策の更なる充実や町の基盤産業でもある農業振興、インバウンド対策を視野に入れた観光振興の促進、更には、空き家対策や子育て支援住宅の整備、移住・定住施策の促進など町の人口増加に努めているところである。

成田空港が開港して何十年と経つが、空港の東側の地域と西側の地域で発展に大きな差があるのが現実である。西側においては、東京方面ということで生かすことができている。多古町をはじめ東側にある地域においては、今まで厳しい状況であった。今後、波及効果を十分に生かした政策を他の自治体と連携しながら進めていく。

多古高校については、キャリア教育推進地域指定校やコミュニティ・スクール指定校としての取組として、小・中学校や各地域と連携した事業を進めている。行政に関しては、まちづくり事業への参加・協力の中で、若者世代の意見集約や各種会議・計画策定委員へ参加してもらうなど、行事への参加を含めて高校生の活躍が町にとって大きな力となっている。こういった中で、町からは多古高校の後援会を通じて学校振興助成金として、特別教育活動振興費と特別教育振興費という名目で150万円の資金援助を行い、活用してもらっている。

多古高校は100年を超える歴史のある多古町唯一の高校である。町の中学生の進学先は多古高校だけではないが、多古町の小・中学生が多古高校の生徒との繋がりを持つのは非常に重要であり、素晴らしいことである。昔は、1学年200～300名であったが、現在は120名定員であり、今年の入学生はそのほぼ半数という現実もある。当然、生徒一人一人に目が行き届くことは良いことであるが、高校生の町を歩く姿の数が増えるだけでも町の賑わいも変わってくると感じている。空港圏として、将来の町の発展、地域の活性化には、高校生はもちろん多古高校の存在は欠かせない。また、空港の更なる機能強化より空港の従業員数は現在の36,000人から70,000人に増加すると言われている。雇用供給の確保を含め、学校を核とした人づくり、地域づくりによる地方創生の実現に高校の存在は不可欠であると感じている。それらの効果を一層高めるためにも、特色ある高校づくりを是非進めていただきたいと思っている。

前回、説明の中で共通性と多様性という言葉があった。具体的なことはわからないが、共通性はどこの高校に行っても同じ教育を受けられることが共通性で、各地域に所在し、その地域の特色のある高校を子供たちが選択できることが多様性でもあると思う。話は戻るが、空港の東側と西側で発展の差がでてしまったが、空港の更なる機能強化で東側の地区の可能性が高まるため、西側の地区に負けられないような魅力ある高校づくりをしていただきたいと考えている。

参考資料として、多古町総合計画の中で、多古高校との関わりについての記載がある部分を抜粋してきた。また、行政に関わらず、多古高校と地域との繋がりの中で、様々な取組を行っている。広報紙の「広報たこ」について記事を抜粋してきたので、御覧いただき多古町と高校との繋がりを感じていただけたらと思っている。

【座長】

多古町については、行政や地域と高校の繋がりが深いということが分かった。また、行政としても高校への支援の方針も伺うことができた。

次に、香取市においては、本日欠席である。香取市の説明について、事務局から何かあるか。

《事務局》

香取市よりまちづくり計画について御意見いただいている。事務局より代読させていただく。

香取市では、まちづくりの指針となる第2次香取市総合計画後期基本計画（計画期間5年間）を令和5年3月に策定した。計画では、人口減少、少子高齢化及び過疎対策を重点プロジェクトに位置付け、様々な取組を実施している。なお、計画策定にあたっては、中学生・高校生アンケートや、高校生から80代まで幅広い世代が参加したワークショップ「かとりみらい会議」などを通じて、「市民の声」を計画に反映した。また、平成26年度から香取市佐原の伝統的建造物群保存地区の回遊性向上を目的として、市所有の空き家を改修した「さわらぼ」を活用している。この「さわらぼ」とは、さわらとラボラトリー（実験室）を掛け合わせた造語である。

「さわらぼ」は、「高校生のまちなかの居場所」、「佐原のまちづくりの拠点」、「観光客と住民の接点」の3つを活用方針としており、その担い手として佐原高校、佐原白楊高校の生徒が展示やイベントの開催等、運営に携わっている。このことにより、「さわらぼ」は高校生の自主性の発揮とまちへの愛着を醸成する場となっている。

以上である。

【座長】

ただいま香取市の説明について事務局の方から代読してもらった。委員の方で補足等はあるか。

なければ、県立高校が所在する市町委員の方から御説明について何か質問あるか。

一つ質問したいが、多古町総合計画を拝見したが、ICTの活用については今後どういった計画を考えているのかお答えできる範囲で教えて欲しい。今後見込まれる日本の人口減少を補うため、IT化の推進という観点では、通信インフラの充実やロボットの活用が国の大きな方針となっている。通信規格が4Gから5Gに変わったことで通信速度や通信精度が上がるため、様々なことができるようになる。例えば、前回委員の方から発言があった運転手不足については、無人バスを試験的に実証実験が行われている。また、畑を無人トラクターで耕す実験の取組を行っているところもある。こういったICTを活用した取組を多古町として何か計画があれば教えて欲しい。

【委員】

ICTの活用は日本全体の話だと思う。行政分野では、昨年からDX推進系の職員を配置し、行政全体のデジタル化や行政手続きの簡素化という点において、ICTの活用に取り組んでいるところである。どこの自治体も取組を始めており、先進的な自治体があれば参考にして、理想としては追い越したい。いずれにせよ、ICTの活用の取組はこれからも続いていくと思う。

【委員】

教育の分野については、国のGIGAスクール構想に向けて推進しているところである。多古町の小・中学校についても電子黒板等を活用してICT教育を進めている。県の指導をいただきながら、ICTの機器を1つのツールとして主体的・対話的で深い学びや自ら考え自ら学ぶことを目指して取り組んでいる。

【座長】

多古高校は、地域と連携した取組をしており、若い世代の人の方がICTを簡単に使いこなしている。今までは、どちらかという地域取組に、高校生が関わり交流することが多いと思うが、ICTの活用という部分では、高校生から地域の方にICT機器について教える取組といったような双方向の交流ができることより良いと思う。

また、成田空港の拡張に伴い、雇用が創出される。コロナの影響もあり、空港内においてICTの活用により人と接触しない手続き等が一般的になった。そういった中で、多古町から空港の人材を輩出するという点では多古町としてICTの活用の支援をすることで多古高校の魅力も上がるのではないかと。

他にいかがか。

では次に、小中学校の将来計画について、各市町の教育委員会の方から御説明いただきたい。では、香取市教育委員会から説明をお願いしたい。

【委員】

小・中学校の将来計画について、香取市の小中学校の配置計画について申し上げる。本市では、香取市学校等適正配置計画、プランを平成22年度に策定し、少子化による児童数生徒数の減少に対処するための学校再編案を示した。平成18年3月、香取市としてとして合併した当初には、小学校は分校を含め27校、中学校は8校あったが、この計画では、平成22年度から令和2年度までの期間で、小学校を16校にするものである。その後、更に進む児童数・生徒数の減少により、平成27年度に当該実施プランの見直しを行い、第一次改定版を策定した。この計画では、平成27年度から令和7年度までの期間で、小学校を14校に、中学校を5校にするものである。

第一次改定版から7年が経過し、更に進む児童数・生徒数の減少に伴う学校の小規模化に対応するとともに、現在の変化の激しい社会を生きぬくためには、小・中学校時代に可能な限り多くの人と関わり、多くの価値観や考え方に接することが重要であることから、再度、実施プランの見直しを行い、令和4年度に第二次改訂版を策定したところである。今後はこの第二次改訂版に沿って、小中学校の再編を進めていくこととなる。

第二次改訂版の主な内容は、再編計画の期間を令和4年度から令和13年度までの10年間とし、児童数・生徒数の推計を更新し、新たに将来的な学校配置の想定を追加した。第二次改訂版策定にあたり、香取市の児童数・生徒数について、令和2年度に生まれた子供が小学生となる令和9年度と第二次改訂版策定開始年度の令和3年度の児童数・生徒数を比較したところ、小学校では637人の減、中学校では263人の減となっている。

学校等適正配置の基本指針については、第一次改訂版を踏襲しており、「教育の充実」、「教育環境の公平性の確保」、「学校運営の効率化と教育資源の有効活用」を掲げている。許容できる小学校の下限として、教育の機会均等のため、学校再編は必要であると考えており、小規模校の下限は、小学校は児童数が120人を超える程度、中学校では、クラス替えができる各学年2学級の合計6学級以上としている。

学校再編の基準と考え方については、許容規模に基づく学校再編、複式学級の解消を最優先課題として考えており、小中連携教育の推進、既存学校施設の有効活用、統合に伴う通学方法の検討（スクールバス等の通学手段の検討）としている。市民協働による学校再編を原則としており、再編統合は、保護者はもとより、地域の方々の理解を得ながら推進しているところである。

会議としては、地域検討会議、代表者会議、準備委員会という統合の進捗による3段階の会議を行い、

地域の方々の要望や意見を聞きながら進めている。最後に香取市の令和5年度現在の小・中学校数を申し上げる。小学校が15校で、香取市合併当初と比較して12校の減、中学校が7校で1校の減となっている。

【座長】

次に、神崎町教育員会御説明いただきたい。

【委員】

本町については、2つの小学校、1つの中学校のみとなっております。本町に高校は公立も私立もない。対象生徒のほとんどが、第4学区、第5学区の高校へと進学をしている状況である。今年度、現時点では、私立高校については、受検対象者が39名のうち7名が単願志望となっており、以前に比べると私立志向の生徒も増えてきているという実態がある。

高校との繋がりとしては、昨年度に佐原白楊高校と神崎町の小・中学校とで福祉教育研究大会実践発表を開催した。3年間の福祉教育という中で取り組んできた内容を発表した。高校生を中心にグループワークなどを行って、児童生徒の交流を深めるよい機会となった。また、今年度は神崎中学校の吹奏楽部が、佐原高校吹奏楽部と町のイベントへの参加のために合同練習をするという、中学生にしてみれば、貴重な高校生とのふれあいの場を設けることができた。学校見学以外で、高校の校舎に入って、一定の時間、高校生と一緒に練習ができたことで、「この高校へ行きたい。」という思いを持った生徒も実際にいたと聞いている。

以上のことから、様々なきっかけを作り、高校の校舎に生徒や保護者が、文化祭以外で見学や高校生とのコミュニケーションが図れるような場があるといいのではないかなと思っている。今月も社会教育の授業で、近隣の高校生が神崎町に部活単位で来ていただき、色々なパフォーマンスを披露してもらうという行事があった。そこで、この高校に通っている生徒や先輩について知ることができ、生徒の様子というのは町内にいても感じる機会はあると思うが、施設を見ていく機会というのは、行政が段取りをして学校と調整したりする必要があるのではないかと、検討委員会に参加すると思うところである。

【座長】

次に、東庄町教育委員会御説明いただきたい。

【委員】

東庄町は、令和2年4月に町内5つの小学校を統廃合して1校としたことで、1小学校1中学校となった。児童生徒数の今後の推移は増える要素はなく、令和11年度までの小学校入学者数をみると、年平均で9%程度減少していき、令和11年度以降は、1学年50人を下回ると予想される。

施設面では、今年度、中学校校舎の長寿命化を図る大規模改修を実施しており、今後20年程度の教育環境維持を想定している。また、小学校においても令和元年度に、20年程度の教育環境維持を想定した長寿命化のための大規模改修を実施し、約20年後が小中学校施設の1つの節目ととらえている。

今後、15年後頃を目安に、子どもの数と町財政状況を見極めながら、小・中学校のあり方を検討する必要があると考えているところである。本町の生徒が通っている県立高校は、近隣では、香取市、銚子市、旭市、匝瑳市にある学校であり、多くの選択肢を持つ状況である。

少子化に伴う高校の再編は必要と思うが、本町としては、今後も各高校がより特色のある魅力を持った学校として存続していくと望む。また、本町は現在、高校と連携した取り組みはないが、令和6年度から令和8年度までの3年間、千葉県から福祉教育推進校の指定を受けたところで、小・中学校、高等学校と連携した福祉教育を行う予定となっている。本町には高等学校がないため、近隣市内の高等学校に協力をお願いし、町福祉社会福祉協議会と一緒に福祉活動を実践していく予定である。

【座長】

では、次に多古町教育委員会御説明いただきたい。

【委員】

小中学校の将来の計画、高校教育との関連した取組等について説明させていただく。今年度、教育委員会では多古町における児童生徒数の推移を踏まえて、小・中学校の将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討し、方向性を見出すため、学校の適正規模、適正配置等について協議し、教育委員会の提言書を取りまとめているところである。

協議の内容については、児童生徒数の減少等の問題だけではなく、学校現場の現状と課題を洗い出して、当面及び中長期的な課題の整理を行い、いろいろな角度から協議し方向性を提言書としてまとめているものである。

次に、先ほど多古高校の校長先生からもありましたが、高校との関連した取組として、多古町では、子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たして、自分らしい生き方を実現するために、力を身につけるキャリア教育を進めている。そのキャリア教育の一環として、多古高校と小・中学校の交流を通じて事業を進めているところである。

事例としては、多古高校の園芸科と連携した花植体験や、小学校の外国語の時間に、多古高校の生徒が訪問していただき、授業に協力していただいている。また、今年新たな取り組みとして、学校給食において、多古高校の園芸科の生徒が生産した米や野菜、多古町の食材を使用して、多古高校の家政部の生徒が献立を考案し、小・中学校、こども園に給食を提供していただいた。あわせて、多古高校の生徒が、小中学校に訪問し、一緒に給食を食べる交流を行った。多古高校の特色を生かした事業、小学校、中学校、高校の交流事業については、今後も多古高校と連携して、継続していけたらと考えている。

【座長】

ただいま、各市町の教育委員会の委員の方々から御説明をいただいた。香取市では、人口減少に合わせて、どのような配慮をするかといった御苦労が見られた気がします。

神崎町からは、高校生徒の交流が必要であるという御意見をいただいた。東庄町では、多くの選択肢を残してほしいと御要望があった。多古町では、小・中学校と高校の交流している様子の御説明いただいた。各委員から質問があれば御発言いただきたい。

また、小・中学校等の交流ということで、資料を御用意いただいた。御説明いただきたい。

【委員】

多古町近隣中学校駅伝大会である。第64回という大変伝統のある大会であり、1月の最終土曜日に行われた。駅伝大会実行委員会、多古ライオンズクラブ、多古町スポーツ協会が主催するものである。

多古町教育委員会が共催しており、資料に記載はないが、多古高校の陸上部のOBで形成された陸友会においても、協力して大会を行っているところである。最初の設立当時は、多古高校に近隣の中学校から有望な陸上選手に入学してもらいたいという趣旨のもとで始まった大会である。伝統もあり、現在は実行委員会の主催という形になっている。

香取郡だけでなく様々な地域から集まってくいただき、盛大に開かれている大会である。今回の会議の趣旨に沿うかわからないが、コミュニティ・スクールの話もあるが、地域全体で盛り上げている大会である。また、農協としても、多古米を参加賞にしており、多古米をアピールするような機会にもなっている。

【座長】

実際、この交流をやっていてよかった点はどんなところか。

【委員】

歴史が長いので、高校駅伝で活躍したり、箱根駅伝に出場した選手もいる。そのような話題づくりになっていると思う。保護者も応援にきており、道の駅の周りのコースを走るため、多古の魅力を発信する良い機会になっているのではないかと感じている。

【座長】

それでは、事務局及び市町から今までの説明を踏まえて、香取地区における県立高校のあり方について、色々な視点から御協議いただければと思う。目的として、香取地区に所在する県立高校がより魅力的になるためにどのような学びが必要であるか、香取地区の地域社会や地域産業を担う人材育成のために、必要とされる学びにはどのようなものがあるのか。という観点で御意見をいただきたいと思うが、いかがか。

発言が難しいと思うが、保護者の立場から、どのようなものを求めているかという点で、お考えをお聞かせいただきたい。

【委員】

保護者として、大きな問題は通学に関することであると思う。前回の協議会に出席し、地域格差があると感じた。この地域から、都市部の県立高校には希望してもいけない。住んでいる場所によって、選択肢が限定されることも問題である。簡単にできることではないと理解はしているが、例えば、進学に特化したクラスなど、各学校で学びや進路に対応できる幅を広げてほしいと思う。

また、子供が高校を選択する際に、中学校の先生と親が多く関わると思うが、親は自分自身の経験しかない。そのため、我々が高校受験する際は、学校の特色等ではなく、学力で行ける場所を選択するという感覚が強かった。各学校では、特色を持った様々な取組を行っていることが、この協議会に出席して、知ることができた。もちろん、インターネット等で調べ、各学校の特色を知っている方もいると思うが、私のような親も多いと思う。また、自分自身が高校を受験したような感覚で話をする親も多いと思う。中学校の先生が、高校の取組をどのように紹介しているかによっても、高校の選び方が変わってくると思う。

【座長】

確かに、人生は一度であり、中学生やその保護者にとっても、基本的に通える高校は1校だけである。親御さんも含め、各学校の現状を知ってもらう機会があればよい。各高校が特色ある取組を行っているが、中学生やその保護者に浸透してないようなところもあり、そこを上手く浸透できるようになればよい。

【委員】

単純な学力で並べて自分自身に合った高校を選ぶ感覚がある。そういう部分はもちろん必要であるが、高校の在り方としては、県が示しているように変わってきている。あとは、通いやすさ。デメリットもあると思うが、多古高校のように原動機付自転車を使用できるなど工夫が必要である。

【座長】

確かに、通学手段というのは高校を選択する上で、大きなウェイトを占めるというのが現実問題としてある。

【委員】

自宅から駅まで遠いため車で送迎する必要がある。また、電車を逃したら1時間程かけて学校まで送っていかなければならない。共働きでかなり厳しい現状である。原動機付自転車で通学と言っても、親としては心配な部分もある。これは、交通機関との兼ね合いもあるので、ここだけで解決するものではない。

【座長】

貴重な意見を頂戴した。今度は私立高校の立場から、思うところがあれば、御意見いただければと思うがどうか。

【委員】

私立の高校には、学区がない。本校でいうと、北は銚田、東は銚子、西は佐倉や酒々井、南は多古な

ど、様々な範囲から生徒がくる。通学の範囲というのは、親の仕事の都合によるところがある。スクールバスを出すことはできるが、一方向に通学バスを出しても一人しか乗車しないとなれば、通学バスは出すことはできない。

私立高校としての公立高校に対する思いとしては、公立高校の入学定員を減らしてほしいということである。基本的には、それが私学にとっては助かる。しかし、私たちの立場だけで声を挙げてしまえば、公立を希望する生徒は私立より多いため、困るという結論になる。

この協議会であえて言わせてもらえば、公立高校にどうあって欲しいかといえば、繰り返しになるが、定員を減らしてほしいという点である。また、公立の学校を減らして欲しいところである。しかし、それでは成り立たないことも理解している。

また、私学も公立に対抗して、生き残っていくためには、特色を持たなければならない。しかし、他校と比べて、明確な特色の違いを打ち出すことは難しい。また、実際に実践するとなるとより厳しい。私学という立場から発言させていただいた。

【座長】

生徒が減っていくことは紛れもない事実である。私立という立場では、経営していかなければならないと点で、私立大学に勤務する立場としても納得できる。

【委員】

生徒が少ないのであれば、それに合わせて教員も減らさなければならない。文科省の定員によれば、1クラスで対応できてしまうこともあるが、進級する際に、クラス替えできる状況を残しておきたい。本校は長年、1学年2学級で対応している。また、生徒が減って教員の数がそのまま維持するとなると、厳しい状況になる。

【座長】

私も大学関係者であり、身につまされるところである。他にいかがか。

【委員】

高校受検をする生徒に志望理由を聞く機会があった。その生徒は、私立高校を希望していたが、その理由としては学校が綺麗だからということである。具体的には、トイレが綺麗だからということであった。施設の充実が大きな志望理由の要因になっていると感じた。

【座長】

私立大学でもすごく意識している。国立大学に勤務していたこともあるが、私立大学は施設へのお金のかけ方が全然違う。学生が大学を見学した際に、綺麗と思ってくれないと入学してくれない。施設の充実による効果はあると思う。しかし、県立高校となるとなかなか難しいところもあると思う。

【委員】

私が通っていた公立の高校とは違い、私立高校は非常に綺麗な校舎で、県立とは全く違うということに大変驚いた。

【座長】

話は変わるが、空港が活性化されるという点で商工の関係から見る効果や影響はどのように考えているかお聞きしたがいかがか。

【委員】

令和4年、成田空港の従業員の内訳としては成田市に続いているのが香取市である。第3滑走路ができることで大きな雇用が見込める。東側の地区としても期待している。また、空港周辺に物流倉庫ができる計画もあり、そういったことも含めて地元で就職してもらえると良い。

【座長】

雇用が生まれるということで、そういった意味で関連した学びとして例えばロジスティクスに対応できる学びや先ほど上がった観光といった学びが香取地区の県立高校にあると良い。

【委員】

その通りである。物流倉庫だけではなく、農振除外についても要望しているところである。

また、地元の商工団体や行政と連携して、どういう職種があるのか、どういう企業があり、どんな仕事をしているのかを小・中学生に知ってもらう機会があると良いと思う。それが一つの人口減少の対策にもなる。

【座長】

商工の関係から御発言いただいた。香取地区は農業の関係も大きいと思うが、農業と空港の関係という点ではいかがか。

【委員】

空港の活性化という点で空港での雇用は増えると思うが、農家は圧倒的に減少している。農協としてどのように携わっていくかという点もあるが、若者に限らず新規就農者等について様々な面から支援をしていければと思う。

また、空港の雇用の状況とは逆で、高卒の就職者が非常に少ない。農協としては危惧している所である。地域と交流しながら、いろんな仕事があるということを知っていただくようにPRしていけたらと思う。

【座長】

委員の皆様から貴重な御意見をいただくことができた。

(3) その他

【座長】

続いて、議事(2)の「その他」に移る。この場において、何か議題があれば、御提案願う。

(意見なし)

予定では次回が最終回となるが、次回の議題について事務局から何か提案はあるか。

《事務局》

次回の協議会の検討事項としては、適正規模に満たない高校の今後の在り方について、そのメリット・デメリットについて御協議いただきたいと考えている。県教育委員会の方として、郡部においては地域連携協働校という考え方を示しているところである。そういった説明を事務局よりさせていただき、香取地区の県立高校4校の今後のあり方について、適正規模・適正配置という観点で議論していただきたいかがいかがか。

【座長】

ただいま事務局より説明があった。次回の第3回については第1回、第2回の内容を踏まえて、適正規模・適性配置に関して協議するということではいかがか。

(意見なし)

特に御意見ないため、今回は適正規模・適性配置に関して協議することとする。

では、進行を事務局にお返しする。